

## 2018年度 事業報告書

### 1. まちなか移住交流推進事業

U・Iターン希望者がお試し居住できる「シクロクルー」をしくみ化。交流サイクリングツアー、空き家見学会、仕事づくり研修などを通して、まちなかへの移住・定住を支援した。

#### ① シクロクルーの受け入れ

コール相談→日帰り訪問→滞在旅行→「お試し居住」の段階的受入。  
移住を検討するステージごとの支援。

#### ② 空き家見学会の実施

「お試し居住」者希望者に今治市中心市街地エリアの物件探しの相談に応じた。

#### ③ 交流サイクリングプログラムの企画・実施

港町として栄えた市内中心部、内海に抱かれた臨海線「はまかぜ海道」をめぐるツアーを企画・催行。



・春の風物詩！お遍路サイクリング  
4/28(土)  
参加者:13名



・はじめてのスポーツバイク  
8/25(土)  
参加者:10名



・トワイライトサイクリング  
9/8(土)  
参加者:5名



・ファームヨガ&サイクリング  
10/8(月)  
参加者:12名



・しまなみ流サイクリング  
11/18(日)  
参加者:16名



・今治プチグルメ散走  
3/2(日)  
参加者:9名

#### ④ まちなかマップの製作

中心市街地エリアの「サイクルオアシス」をマップとして紹介し、移住・定住希望者が地域を訪れた際に、気軽に立ち寄り、地域の報や暮らしの様子などを聞くことができるツールとして配布した。



店舗などの担い手が旅行者へ多様な情報を提供する交流拠点を紹介したマップは好評で、移住・定住希望者にとっては地域の生きた情報が収集できる施設として認知された。

## ⑤ 移住促進活動

愛媛県への移住に関心のある首都圏在住者を中心とした移住相談会「愛あるえひめ暮らしフェア in 東京(第4回)」に参加した。愛媛県内の市町や移住者の受け入れを行っている地域団体19社が集まり、説明会と個別相談会を行うもので、催しの中では愛媛各地の地域おこし協力隊やNPO法人による特別講演があり、仕事や日々の暮らしぶりを説明していた。当会は個別ブースで、移住についてのさまざまな質問に対応した。実際に愛媛県に移住された方々の事例も交えての情報提供をすることができた。

日時：平成30年12月23日(日) 11:00~16:00

場所：ふるさと回帰支援センター グリーンルーム

東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館3F



「まちなか移住交流促進事業」により、お試し居住できる拠点として、「シクロの家」の活用を進めた。「シクロクルー」の制度により、移住を希望する来街者への情報提供等ができたことは有意義だった。2018年度をもって、この補助事業は終了する。2019年度からも「シクロクルー」の受入は継続し、個別性が高い移住・長期滞在者のニーズに対応するしくみとして、充実させていきたい。

## 2019年度の実施 ★サイクルオアシス総合拠点「シクロの家」での移住促進

### ・シクロクルーの受入継続

## 2. 女性の社会進出を支援する福祉ネットワークの構築 成果物：モニタリング事業実施マニュアル ～自転車による健康増進プログラム開発によるコミュニティ形成～

自転車を日々の暮らしの中に取り入れ、人々を健康にすることを普及するため、愛媛県理学療法士会、愛媛県栄養士会等との連携によるプロジェクトを展開した。働き盛り世代の女性を対象に自転車による健康・体力づくりにつながる継続的な支援体制を構築するモニタリング事業を実施。日常的なサイクリング運動、ツアーや講座を通して、自転車の「健康」への効用を啓発した。自転車を愛用するようになった市民からは、時間の使い方等の生活スタイルの変容を実感する声が届いた。本県が抱える生産年齢人口の減少、社会保障費の増大等、地方都市の長寿社会形成への新たなモデルとして、多様な地域での実践の輪拡充につながるマニュアルを作製した。

### ① モニタリング事業

対 象：20歳代～50歳代の女性 20名

期 間：平成30年7月29日(日)～10月21日(日)

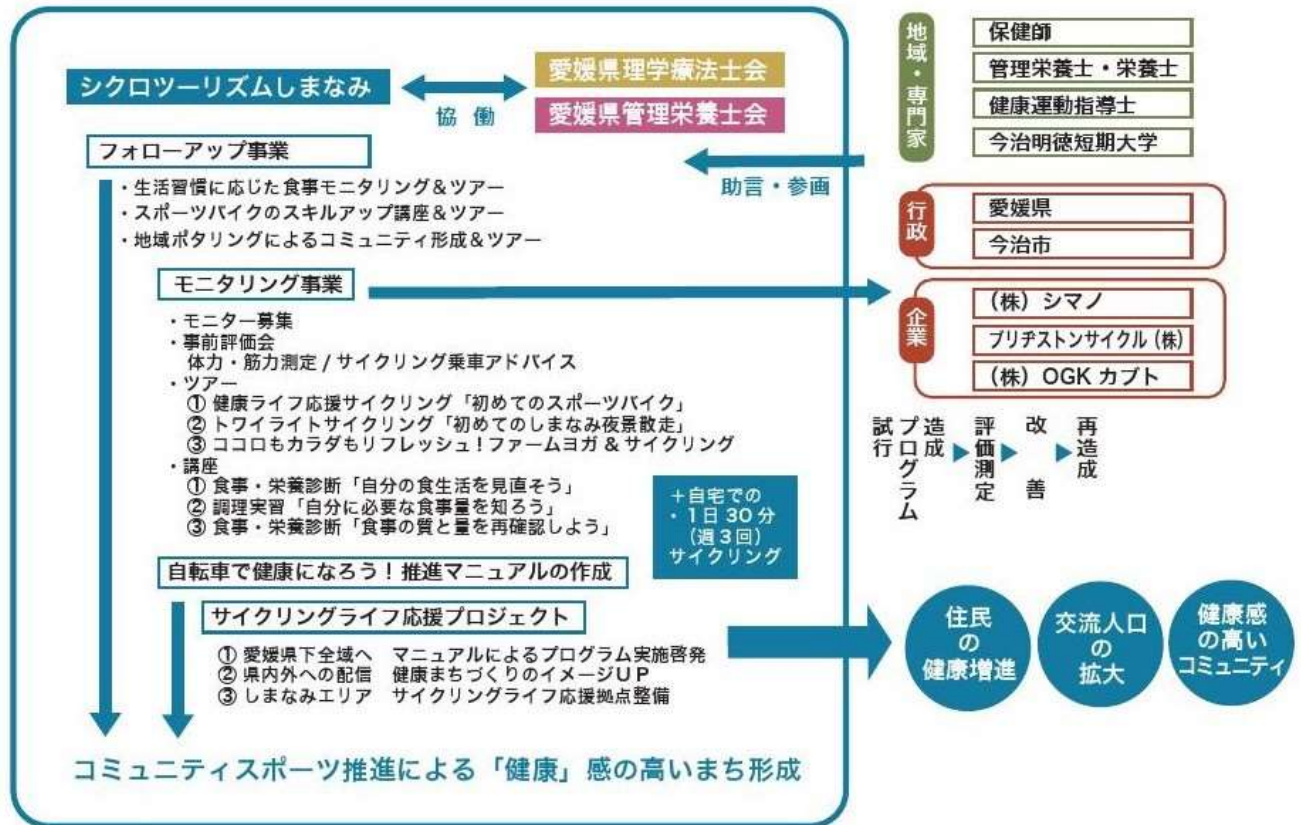
若年女性対象のモニタリング事業は3カ月間の短期間での集中実施が実を結んだ。モニターの中のリーダー的存在のけん引力があり、自転車による健康づくりを継続するコミュニティ形成が感じられた。

「愛媛県理学療法士会」「愛媛県栄養士会」との役割分担が有意義に進み、次年度以降の健康づくり拠点整備への建設的な意見交換ができた。県下に波及するために必要なしくみについてはイメージ共有ができた。

## ② マニュアルの作成

モニタリング事業の成果、日常生活に取り入れやすい自転車運動による健康づくりを可視化した報告書を作成した。愛媛県全域に配布した。健康への有用性、スポーツバイクの普及による健康づくりなどの支援を提供プログラムとしてパッケージ化し、支部を有する連携団体「愛媛県理学療法士会」「愛媛県栄養士会」の理事会等において、内容を報告する機会を得た。次年度以降、しまなみ海道エリア以外での実践が生まれるよう支援したい。

### 《事業フロー図》



本事業で確立した地域の連携体制をいかし、経常的なサイクリングツアー等の提供を行う拠点として、「なみかた海の交流センター」を活用したい。また、「10年後の身体づくり」を打ち出してのモニタリング事業は、スポーツバイク愛好者のすそ野拡大にもつながることから、健康経営に関心がある企業等の協力を得る等の体制を構築し、継続展開を目指したい。

### 2019年度の取組 モニタリング事業の実施（里山の恵みを活用したサイクルツーリズム造成事業）

・愛媛県理学療法士会・愛媛県管理栄養士との協働によるモニタリング事業の実施

### 3. 高齢者等の余暇活動支援のための自転車タクシー運用実験（2018年度 年賀寄附金配分申請事業）

自転車に乗りたいというニーズが体力面等から自転車乗車が困難な高齢者、障がい者等に広がっている背景を受け、「自転車タクシー（ペロタクシー）」の運行を実験的に行った。案内ガイドの養成と観光ガイド付きサイクリングツアーを造成し、老若男女がサイクリングを楽しめるアクティビティを創出、かつ移動手段として利便性がある自転車の回遊交通ネットワークのしくみづくりを進めた。

#### ① 自転車タクシー乗車体験及びサイクリングガイドツアーの実施

乗車体験を2回、ツアー3回を催行した。今治市中心市街地において展開した乗車体験会は、2台の自転車タクシーに延べ53人が乗車した。サイクリングツアーは事前申込制の貸切乗車とし、延べ36名に体感いただいた。無料で催行の予定であったが、次年度以降の継続展開を見据え、有料で募集し、利用者に値ごろ感を伺う取組とした。

【乗車体験会】コース：サイクルオアシス「シクロの家」～

今治市中心市街地エリア（今治城・丹下建築・今治港）～「シクロの家」

運行日：9月2日（日）・12月2日（日）



【ガイドツアー】コース：サイクルオアシス「浜の台所 潮里」～サイクルオアシス「城慶寺」～

今治港「はーばりー」～サイクルオアシス「シクロの家」

運行日：7月22日（日）・9月16日（日）・3月24日（日）



体験、ツアー催行と並行し、ドライバーの確保を意識した「ガイド育成会」を行った。地元から担い手を募集し、大学生等を中心とした参加者に安全運行のための技術等を習得した。この取組を通して、エリア内の交通事情を理解する必要性を強く感じ、ガイドラインを製作することとした。また、起終点となる停留所「サイクルオアシス」には目印となるサイン整備を行った。

## 【ガイド育成会】



※自転車タクシー運行ガイドラインは別紙の通り

### ② 自転車タクシー利用のためのツール作製としくみの検討

自転車タクシーの運行ルート上の課題整理、資源発掘等を行った。「サイクルオアシス」を停留所として活用した、最適な周遊ルートを選択し、定期的な運行に向けた基盤を整え、停留所等の起終点周辺での飲食、ショッピング、散策等を楽しむための情報誌を製作した。



※マップ・情報誌は別紙の通り



2019年度取組 今治市の宿泊拠点での集客商品造成（個人旅行・インバウンド観光を促進する地域ブランディング事業）

### ・自転車タクシーの運行

## 4. 耕作放棄地を基地とした自転車エコツアープログラム造成事業

成果物：なみかたフィールドマップ・報告書「産業と共生するなみかたの自然環境」

～環境保全につながる調査活動等によるコミュニティ形成～（平成30年度愛媛県NPO等自立モデル事業補助金）

今治市陸地部海岸線（はまかぜ海道）・今治市波方町において、自転車旅行者を受入れる前に、住民が地域の魅力を発見し、価値を体感しながら交流活動の素地をつくり、これを基盤にした環境保全と観光振興の両立を図るしくみづくりを行った。

### ① 自然環境調査と耕作放棄地の基地化

#### 自然環境調査

波方町は山から海へつながる良好な水質環境があり、ため池には「ガガブタ」「オオバシラミズニラ」、海洋には「アイアシ」「ハマゼリ」等の絶滅が危惧される生物が生息するホットスポットである。小澤潤氏（愛媛植物研究会役員・環境省自然公園指導員）に依頼し、このエリアの集落ごとの生物多様性調査を12回行った。地域性ある多様な資源を発掘、プログラム造成の検討につなぐことができた。

## 耕作放棄地の基地化

耕作放棄地となっている果樹園（以下「シクロ農園」）において、市外来訪者や住民と共に土壌改良及び作付け、起伏地形を活かした遊び場づくりを進めた。整備や修復には中長期滞在者等の宿泊を誘致する「CYCLO CAFÉ & BOOK HOSTEL なみトみなと（平成30年7月7日開業）」の宿泊者の関心層に参画を促した。

## ② 体験活動プログラムの造成とマップの編纂

### 体験プログラムの造成

住民、地域の専門家を担い手に、以下の活動のプログラム化を図った。波方の集落を巡るサイクリングエコツアー、「シクロ農園」等を立ち寄りポイントとした体験造成をベースに、「なみトみなと」の中長期滞在者から聞き取りを行い、モニタリングを行いながら体験活動を検討した。住民の担い手の参画を画ながら、以下のプログラムを造成した。

- 自然観察会：2時間、4時間等の有料提供プログラムを構築。
- クラフト活動：「かご作り」をプログラム化。
- アウトドアプログラム：「ファームヨガ」をプログラム化。

上記の内容のモニタリング事業の準備を進めている。



## ③ なみかた半島サイクリングマップの編纂

### 「なみかたフィールドマップ」

「シクロ農園」を中核に周辺を自転車で散策できるマップ「なみかたフィールドマップ」を編纂した。サイクリングルートと合わせ、自然環境調査結果を資料に地域資源を探索し、回遊できるツールとして「なみかたフィールドマップ」を編纂、配布した。



### 「産業と共生するなみかたの自然環境」

自然環境調査結果をとりまとめ、報告書として発行した。

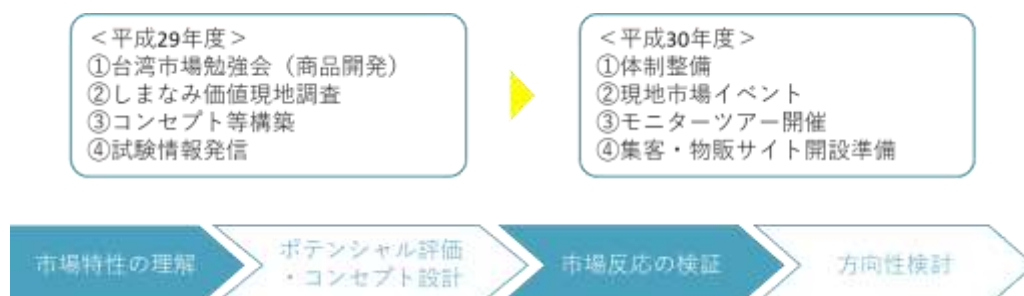
## 2019年度の実施 サイクリングエコツアーの開催（個人旅行・インバウンド観光を促進する地域ブランディング事業）

- ・シクロ農園の管理
- ・地産食材提供のサイクリングエコツアーの開催

## 5. しまなみ農泊

日本の農漁村地域の典型例の一つであるしまなみ海道の“地域の暮らしの魅力”を、これまで国内のサイクリング愛好家（初級～中級）に加え、国外の日本らしい食と暮らしに関心を持つ層（レトロな文化資源の愛好家）に発信し、生活文化の交流プログラムの開発を通じて、農林漁業者の所得向上に資するしまなみ海道における中長期滞在促進に向けた実証的トライアル事業を行った。

### ① 取り組みの構成



## 活動成果の総括

### ＜市場特性＞

- 日本への旅行はリピーター率高く、滞在時間も4日以上～14日未満がボリュームゾーン
- 観光消費額は女性シニア層の伸びが高い一方で、若年層の伸びも高く、食やコト消費の拡大が期待できる（ボリュームゾーンの消費額は9～19千円/日）
- 台湾の国内消費においても文化施設での時間消費・消費支出が増える傾向。渡航先での若年カルチャー体験のメディア紹介も増加
- 歴史建造物のリノベーション、地方（台北以外）での地域に根ざした文化活動・交流へのニーズが高まっている。
- 普段の行動として、外食に対する抵抗感少なく、市場や屋台文化など気軽な食を楽しむ人が多い

### ＜現地市場の反応＞

- 芸術祭・台湾自転車メーカーの進出で地域に対する認知度は比較的高い
- 風向明媚は理解しているが、地域の産業や食文化の情報は届いてない
- インタラクティブな意見交換に関心がある。
- 柑橘栽培や移住者による起業、古民家等のリノベーションの実践体験への関心が高い
- リノベーションゲストハウスが高評価
- 生産現場の“暮らし”との関わりをテーマとした交流に熱心に聞き入る
- お遍路や神社など民間信仰に関心がある。現地では個々の具体的な解説やそれが現代にどのような意味を持つか関心がある

### ＜今後の方向性＞

以下の気づきを基に「なみトみなと」「シクロ農園」の集客へつなぐ活動を行い、一次産業等を含めた地域の保全活動を展開したい。

- ・限られた時間を有効に使うためにオンライン等も活用した対話型の事前学習
- ・専門的な知識を分かりやすく伝える（個性ある属人性高い説明）
- ・訪問地での滞在時間を確保するため、飲食の制約を緩和することを検討（携帯性高いメニュー開発）
- ・学びをテーマとする場合、それぞれの学びを地元関係者と振り返る場の設定・運営方法を検討する
- ・旅先の経験を発地でも追体験できる仕組みを検討する（土産品事前選定・仮予約システムなど）

## 6. フェイスブック「しまなみサイクリングパラダイス」運営管理事業

フェイスブック「しまなみサイクリングパラダイス」を運営。「しまなみ海道」の魅力を広く国内外にアピールするとともに、旬で最新の情報を積極的に提供し、誘客促進ツールとして活用した。

### ① カバー写真の更新

サイクリストの聖地としてアピール又は連想するものを使用した。



## ② 取材と記事投稿

現地取材を中心とした記事を投稿し、しまなみ海道とその周辺の新鮮な情報提供を行った。文章をできるだけ簡潔にし、読者が読みやすい記事にすることを心がけた。また、読者に深く印象付けるために、写真は複数枚、載せる配列を考慮した。投稿は3日に1回とし、より多くの読者のニーズに合致した情報を伝えることで、「リーチ数」や「いいね!数」の増加につながったことから、サイクリスト等を始めとした読者に必要な情報媒体として当 Facebook が認識されていることがうかがえる。

(特に配慮した点)

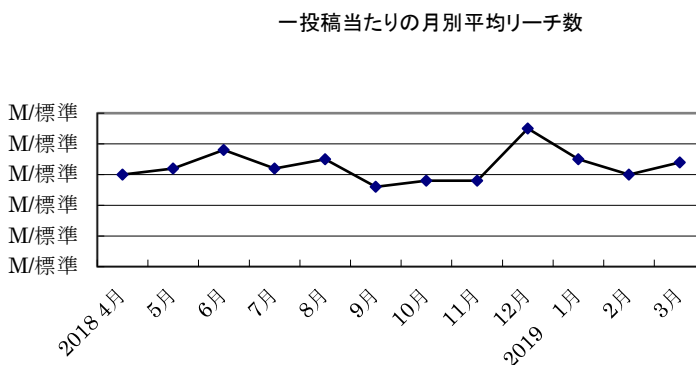
- ・しまなみ海道を一日で縦断するサイクリストにも、立ち寄りを促すため、気軽に立寄ることができるグルメスポットや絶景ポイントの情報を定期的に配信した。
- ・月に一回投稿する英語の記事では、「公共レンタサイクル」や「ブルーライン」など、しまなみ海道に関する基本的な情報を中心に、配信した。



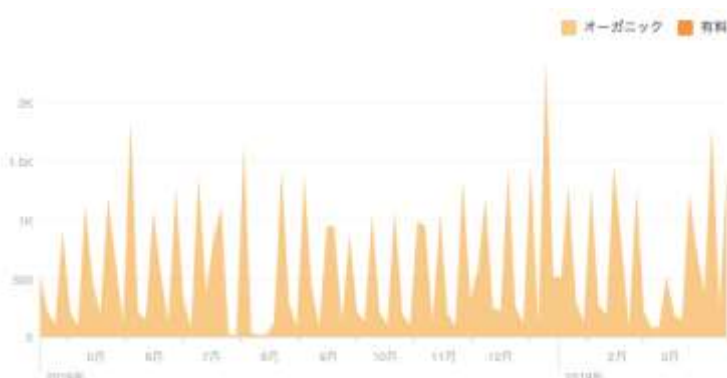
## ③ 運営と分析

記事へのコメントやシェアなどのアクションにより、配信された人数が左右するリーチ数は、どれだけの利用者が投稿を見たかを表す指標である。

12月に投稿した2本の記事のリーチ数はそれぞれ約4,000と7,000で、最多となった。4～12月を通して、平均で1,500以上のリーチ数を維持し、12月が最も多かった。平成30年12月31日現在までのリーチ数の変動を示したグラフである。



新しい記事を投稿する際には、前回投稿した記事のリーチ数が下がってから新たに投稿したことで、リーチ数が伸びるグラフとなっていることから、記事の配信が適切なペースで行われていることがわかる。



ファン数は増加しているが、男女の内訳は前年と同様に男性の方が高い。年齢層別においても35-44、45-54歳の方が高い傾向にある。当ページは、ほぼ日本国内全域でシェアされており、確実に「しまなみ海道」が「サイクリングの聖地」としての認識が広がっていることが分かる。また、今年度は大阪市のファンが上位にあがってきており、関西圏のファンもさらに増加している。海外からのファンも着実に増加しており、今後の課題の一つとしては、英語記事の配信で海外へのアピールを意識し、外国人利用者をさらに増やしていくことと、0～20代の若者が興味をひく内容や女性の共感を得る記事をさらに増やしていくことが課題であると考えます。

## 7. 中予（ちゅうよ）及び東予（とうよ）サイクルオアシス整備事業

気軽に立ち寄って休憩ができ、地域の人々との交流が図れるサイクリストの「おもてなし」の場所として「中予（ちゅうよ）及び東予（とうよ）サイクルオアシス」を整備した。世界各地のサイクリストを迎えている「しまなみ海道」で生まれた、自転車旅を支える「サイクルオアシス」の仕組みを、近隣エリア全体に広げることで、地域における交流人口の拡大や活性化を目指すビジョンを共有した。

### ① 選考・現地調査

現地へ出向き、応募者への聞取調査、空間の調査を行った。



### ② オアシスへの器材配備

- ◆バイクスタンド : MINOURA ストレージスタンド LEVEL-170H
- ◆空気入れ : スペシャライズド HP フロアポンプ英式アダプタ付き
- ◆工具セット : BIKE HND ツールボックス YC-728



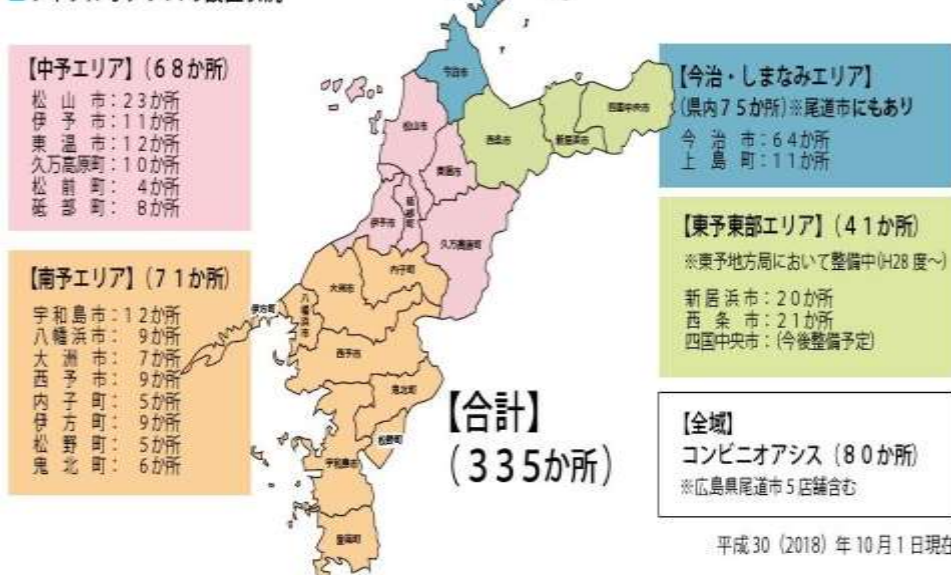
### ③ オアシス運営に関する助言

器材整備等の際に、登録者へオアシス運営に関する助言や指導を行った。

しまなみ海道からスタートした「サイクルオアシス」のしくみは、愛媛県全域に波及した。地域を訪れるサイクリストが、気軽に立ち寄り、休憩ができることに加え、地域の人々との交流が図れる「おもてなし」の場所として認知され、存在価値と意義が地域住民の中に浸透を始めていることを感じている。「中予（ちゅうよ）サイクルオアシス」「東予（とうよ）サイクルオアシス」は3カ年をかけ、各60ヶ所の整備をすすめてきた。

2018年度の整備で一区切りとなり、今後は、応募があった段階で、愛媛県の各窓口が整備を可能な範囲で進めていくことになる。当会は「しまなみ海道」の総合拠点「シクロの家」、「はまかぜ海道」の総合拠点「なみとみなと」の運営者として、今後も「サイクルオアシス」のネットワークづくり、機能の充実など、しくみを継続的に育てていく役割を担っていききたい。

### ■サイクルオアシスの設置状況



## 8. 平成30年度外国人留学生へのサイクリング普及促進事業

外国人目線による地域の魅力の発掘、留学生による地域情報の拡散を展開し、地元の人が気付いてない潜在的な魅力を発掘し、合わせてサイクリングコースの可視化を進めることを目指し、外国人留学生を対象に以下の2つの事業を行った。地域資源を発見、発信することができた。

### ① スポーツサイクル体験教室の企画・実施

自転車のルール、マナー、スポーツバイク乗車の際の注意点等の講習を行った。講習後はスポーツバイク走行体験を行い、「スローサイクリング」ツアー参加へのモチベーションを醸成することができた。

日時 平成30年11月23日（金・祝）13:00～16:00

会場 愛媛県国際交流センター及び松山市内

講習 吉武優子・宇都宮一成

ガイド 加藤忠義（先導）・宇都宮一成（中導）・清水悠生、吉武優子（後導）

参加者 外国人留学生9名・日本人ボランティア3名



#### i 講習

安全なサイクリングの前提となる「日本における自転車のルールマナー」の理解を進めた。「自転車の間違った乗り方クイズ」を用い、参加型で学ぶことで、安全走行への意識を高めることができた。



#### ★自転車安全運転啓発ツール（補足説明）★

※当会では「自転車は車両」であるとの認識を持ち、安全運転するサイクリストを増やすことを目指した啓発活動を展開している。認識不足から守られにくい自転車の規則をクイズ形式で学ぶツールを活用した取り組みである。この日は、このツールを使用し、日本の交通事情、規則について分かりやすく説明。自らの命を守るヘルメット着用と合わせ、安全な走行を意識するよう呼びかけた。



#### ii スポーツバイク走行体験

スポーツバイクへの乗車が初めての参加者が対象となったため、はじめてスポーツバイクに乗車する方が乗りこなしやすいクロスバイクを用意した。フィッティング、変速機の使い方等を丁寧に説明し、ヘルメット着用を促した。その後、ガイドの伴走のもと、公道でスポーツバイクに乗車した。

「城山公園堀之内」ではスポーツバイクの乗車姿勢等を個別に確認する時間を持った。スポーツバイクへの関心を高めてもらおうと、レンタル提供したクロスバイクと仕様が異なるロードバイクの試乗体験を実施。参加者からは「軽いですね」、「バランスをとるのが難しい」という声が上がった。交通量が多い市街地では歩道を通りながらの安全走行、交差点での安全な横断等を誘導した。曖昧な自転車の規則、道路の使い方への認識を持ってもらうことができた。また、途中、サイクルオアシス「坂の上の雲ミュージアム」、「松山市立子規記念博物館」等へ立ち寄った。サイクルオアシスの機能を説明し、施設の設置目的等を管理者から直接聞く時間を持つことができ、利用と交流促進への思いを伝えることができた。

## 2019 年度の実施 ★外国人留学生へのサイクリング普及促進事業

## ② スローサイクリングの企画・実施

中予地方局管内の幅広いエリアの魅力を発掘することを念頭に、今回は3つの市町を巡る「スローサイクリング」ツアーを開催した。インバウンド対策を念頭に、外国人に訴求する資源発掘、体験などのコンテンツ造成が目指される中、外国人留学生に多彩なルート、文化的な体験等を提示した。地元の人が気付いてない潜在的な魅力への気づきもあり、有意義だった。なお、サイクリング中は五感をフル活用し、ポイントごとに停車。SNSによる動画や写真の発信を依頼した。

日 時 平成30年11月25日（日）9:00～16:00

会 場 愛媛県国際交流センターから中予地方局管内市町（松山市・砥部町・東温市）

ガイド 加藤忠義・宇都宮一成・清水悠生・村上雅之

参加者 外国人留学生15名・日本人ボランティア3名

### i オリエンテーション

出発前のオリエンテーションとして、自転車のルール、マナー、スポーツバイク乗車の際の注意点等を改めて確認した。

### ii ツアー

ガイド付きツアーを行った。走行中は積極的に気づいたことを共有したり、写真撮影をしたりする時間を設け、中予の魅力発信ができるよう準備を促した。また、体験ポイント、食事ポイントではコミュニケーションを深め、ツアー参加者の一体感を醸成すると共に、地元の担い手との交流を促した。

#### A：松山編

松山と言えば、道後だが、あまりに有名で足を運んだことがないエリアだ。まだまだ知られていない隠れた歴史・文化、ガイドブックには載っていない市民に親しまれるスポット等を堪能。自転車だから巡ることができるルートに、まち探索の便利さを体感することができた。

ルート：国際交流センター～岩堰橋～道後方面から→国際交流センター

距離：約30km

参加者：留学生5名（中国・インドネシア/男性2名・女性3名）・ボランティア1名



#### B：砥部編

松山市内を抜け、砥部方面へ向かった。重信橋を渡ると、まちの風情が変わり、砥部焼の里に踏み込んだ雰囲気包まれた。途中、サイクルオアシスへの立ち寄りで、地元との交流をたっぷり堪能。メインの砥部焼体験の会場は地元の酒蔵「初雪盃直売所」だ。絵付けに没頭した後は、サプライズの酒蔵の見学に。担い手の厚意を受け、砥部の魅力を堪能するツアーとなった。

ルート：国際交流センター～重信橋～重信川サイクリング道～国際交流センター

距離：約30.5km

参加者：留学生5名（フィリピン・韓国・アメリカ/男性2名・女性3名）・ボランティア1名



#### C：東温編

松山市内から重信川沿いのサイクリングロードを遡行し、東温市を巡った。サイクルオアシス「横河原プラットホーム」を訪問。東温市の山あいにある「ほっこり奥松」から講師を迎え、竹を加工する伝統工芸にチャレンジした。日本で古来から親しまれてきた伝統工芸「竹細工」。プラスチック製品では味わえない温かみのある作品を作りながら、地元の担い手とのふれあいを楽しんだ。

ルート：国際交流センター～久米～南高井～重信川～東温市～松山市内～国際交流センター

距離：約34km

参加者：留学生5名（モザンビーク・バングラデシュ・中国・台湾・ミャンマー/男性4名・女性1名）  
ボランティア1名



## 9. 自転車通勤推進ワークショップ開催業務

温暖化対策推進への取組が求められる中、大きく増大している家庭での省エネルギー等の推進が求められている。運輸部門の排出量のうち、自動車によるものが約8割を占め、その多くが家庭で利用する普通自動車となっていることから、自家用車の走行に伴うCO2排出量の低減が課題である。そこで「健康と生きがいと友情を与えてくれる『自転車新文化』」を推進する本県において、自動車の使用を控え、自転車を活用するライフスタイルの転換を呼び掛ける事業を企画し、愛媛県が募集した参加者を対象に2回のワークショップを開催した。冒頭、愛媛県から「自転車ツーキニスト」の普及拡大の目的を説明。クールチョイスの一つとして、通勤手段をバイクや自動車から、CO2を排出しない環境にやさしい乗り物「自転車」に変える施策への理解を促した。地球温暖化対策への寄与という環境配慮型の暮らしへの理解を前提としつつ、エコ通勤に取り組むことで適度な運動による健康づくりにつなぐ意識を持つ輪を拡充したい旨を合わせて伝えた。体力、筋力の向上、精神の安定等、心身の健康状態の改善に効果がある検証事例、自転車通勤を普及する際に理解しておきたい安全な自転車走行を続けるための交通ルール、快適で安心な自転車乗車のヒント等について、座学とフィールドワークを通じて共有することができた。

日時：1回目 平成30年10月30日（火）13:00～17:00

参加者：6名

＊一般企業5名・自治体職員1名

＊男性2名・女性4名

＊23歳～64歳

2回目 平成30年11月13日（火）13:00～17:00

参加者：9名

＊一般企業5名・自治体職員4名

＊男性4名・女性5名

＊26歳～55歳

会場：愛媛県武道館 中会議室

走行体験：ルート 武道館～国道56号線～千舟町通り～柳井町～石手川沿い道～武道館

距離 約7km

時間 約1時間

内容：自転車通勤が心身の健康に寄与することの検証データの説明



走行体験（安全面や自転車の調整等の説明を含む）



## 10. ランニングバイクによる啓発事業

未就学児を対象に自転車の楽しさを伝える遊び場「自転車ヒロバ」をオープンした。親子三世代が集う場づくりを行い、ヘルメット着用などの安全な自転車乗車を啓発した。

### ① 自転車ヒロバのオープン

#### (1) なみかた海の交流センター（主催）

夏休みのスタートと合わせ「自転車オープン」。賑わいづくりにつながる取組に地元の評価を得た。

日時：平成30年7/29（日）8/5（日）12（日）19（日）26（日）9/9（日）30（日）10/14（日）11:00～14:00  
計8回

人数：幼児～小学校低学年 延べ 約400名

※「自転車ヒロバ」開催と合わせ、シーカヤック体験の企画。外部講師を招聘し、瀬戸内海の潮流を体感する「90分体験ツアー」を提供した。

日時：平成30年8/4（土）5（日）

人数：延べ12名

#### (2) 新来島ドック

第13回新来島感謝祭への出張。

平成30年11月24日（土）

人数：幼児～小学校低学年 延べ 約600名

### ② しまなみランニングバイク選手権の開催

上記ヒロバ活動を訪れる幼児の目標となる選手権を開催。水軍の海城、潮流などの瀬戸内の海を体感できるサーキットコースを整備し、開催した。県外来訪も得て、大きな集客効果を発揮した。

日時：2018.11/3（金・祝）10:00～15:00

人数：選手（2歳～6歳の未就学児）200名

一般来場700名



### ③ レインボーハイランドカップ第4戦 しまなみランニングバイク選手権2019

未就学児が自転車の楽しさを体験型で学ぶ「レインボーハイランドカップ第4戦 しまなみランニングバイク選手権2018」を開催した。大会前日には本コースを一部利用しての「自転車ヒロバ」を開催し、「松山市野外活動センター」への来場を促した。大会当日は県内外190名の選手が芝生広場に集合した。本コースは芝生広場の全面を活用し、冒険心をくすぐる特設コースを設置した。人気はみかんの障害物、水軍ののぼり旗などで、特に2歳児クラスはアトラクションを楽しむかのようにレースを満喫していた。今年度は、本コース以外にランニングバイクフリー走行ゾーンを設けた。出走時間以外に子ども達がランニングバイクに乗車できる空間を設けたことで、安全にランニングバイクで遊んでもらうことができた。例年、多くのボランティアスタッフが大会を支えているが、今年度は愛媛大学学生の協力の輪が広がった。若い力に助けられ、会場が明るい雰囲気になった。ゴール前ではスタッフが一丸となって子ども達の力走をたたえ、笑顔をつなぐことができた。保護者からはたくさんの人に支えられた大会ですばらしい思い出になったとの声が聞かれた。

自然の中で様々な体験活動ができる施設「松山市野外活動センター」の空間を活用し、三世代が交流しながら、アウトドアレジャー・スポーツに親しむ時間を共有できたことが有意義だった。春休み前の閑散期の利用に資する取り組みとして定着しつつあることを感じた。

日時：2018.2/25（日）10:30～15:30

人数：選手（2歳～6歳の未就学児）190名・一般来場800名

(年齢別のレース)



## 11. なみかた海の交流センター管理運営事業（今治市委託事業/3 か年事業）

1 階の交流スペースを活用し、展示機能「自転車旅行博物館」、飲食提供「シクロカフェ」を行ってきた。また、未就学児を対象にした「自転車ヒロバ」、住民の健康増進プロジェクト「しまなみアウトドアフィットネス」等、各種プログラム提供による集客を図ってきた。一定の効果はあるものの、安定した収益源確保には至っていない。カフェ機能の強化によりサイクリング途中の休憩・ランチタイムを過ごせる居心地のいい空間とサービスの創出と合わせ、2 階の一部を活用し、宿泊機能を加えた運営を行うことを目指し、準備を進めた。

詳細は「13. 宿泊業「Cyclo cafe & book Hostel なみトみなと」参照」

**2019 年度の取組 ★里山の恵みを活用したサイクルツーリズム造成事業（愛媛県観光集客力向上支援事業）**  
**～集客拠点の機能強化による持続可能な受入環境整備～**  
**自主事業「CYCLO CAFÉ & BOOK HOSTEL なみトみなと」**

## 12. 地域限定旅行業

地域資源の活用、住民との交流を促進するため、ガイドツアーを催行。自転車旅行者のニーズに対応するため、宿泊や交通を組み合わせた着地型旅行商品を造成し、提供した。

### ① 募集型旅行

#### (1) 日帰り旅行

##### 1. まちなか移住交流推進事業

#### (2) 一泊二日

##### ■第4回シクロ女子旅（春）

平成 30 年 4 月 14 日（土）・15 日（日） 1 泊 2 日  
 4/14：18 名 4/15：13 名 延べ 31 名

##### ■第2回しまなみキャンプライド

平成 30 年 7 月 21 日（土）・22 日（日） 1 泊 2 日  
 11 組 19 名（男性 13 名・女性 7 名）

##### ■第5回シクロ女子旅（秋）

平成 30 年 9 月 15 日（土）・16 日（日） 1 泊 2 日  
 9/15：20 名 9/16：20 名

##### ■第7回タンデム自転車祭り

平成 31 年 3 月 23 日（土）・24 日（日） 1 泊 2 日  
 3/17：18 名 3/18：19 名 20 名



### ② 受注型旅行

個人オーダーメイドツアー、社員旅行等の団体オーダーメイドツアーを企画、主催した。

○内容：しまなみでの自転車の個人旅行を個別にコーディネートした。

実績：平成 30 年 4 月 3 日（火）2 名（個人旅行者/シニアの一人旅）

平成 30 年 4 月 21 日（土）4 名（個人旅行/しまなみ海道家族旅行）

平成 30 年 5 月 4 日（土）3 名（個人旅行/しまなみ海道家族旅行）

○内容：しまなみでの自転車の社員旅行、視察旅行等を個別にコーディネートした。

実績：平成30年6月16日（土）12名（リョービ株式会社/社員の健康講座（サイクリング体験））

平成30年11月16日（金）★名（青森）

平成30年11月21日（水）★名（★）

### ③ 委託販売

○JTБ しまなみ海道タンデム自転車ツアー

内容：来島海峡大橋、大島での島グルメを楽しむツアーのアテンド。（関西圏からの来訪者中心）

実績：平成28年9月18日（日）4名

### ④ ガイド派遣・オペレーション

旅行会社主催のツアーへのガイド派遣。

○株式会社エイチ・アイ・エス関西法人団体営業グループ \*41040（5/31）

内容：韓国からの旅行グループ20名へのガイド派遣（ツアーアテンド）

実績：平成30年4月6日（金）120名

○YMCAシンガポール

内容：しまなみ海道2泊3日のサイクリングツアーへのガイド派遣（ツアーアテンド）

実績：平成30年4月11日（水）・12日（木）8名

実績：平成30年10月10日（水）・11日（木）12名

○富友旅行社（台湾）

内容：自転車部品メーカーの社員旅行（今治～大三島間サイクリング）へのガイド派遣

実績：平成30年5月18日/19名

○青森県観光国際戦略局 観光企画課

内容：しまなみ海道日帰り視察ツアーへのガイド派遣（ツアーアテンド）

実績：平成30年11月16日（金）4名

○株式会社ロケッツ

内容：しまなみ海道1泊2日ツアーツアーへのガイド派遣

実績：平成30年11月20日（火）・21日（水）5名

○みちトラベル

内容：しまなみ海道サイクリングツアーへのガイド派遣（ツアーアテンド）

実績：平成31年3月26日（火）3名

○日通旅行 小学生しまなみサイクリングツアー

内容：小学生を対象にしたサイクリングツアーへのガイド派遣（ツアーアテンド）

実績：平成31年3月26日（木）30名

### ⑤ 自転車を解体せず、そのまま車内に持ち込める「サイクルトレインしまなみ号」の受付事務。

○四国旅客鉄道株式会社 ワープ松山

内容：予約受付・JR波止浜駅オペレーション

実績：春20回・秋25回

2019年度の取組 ★自主事業「地域限定旅行業」

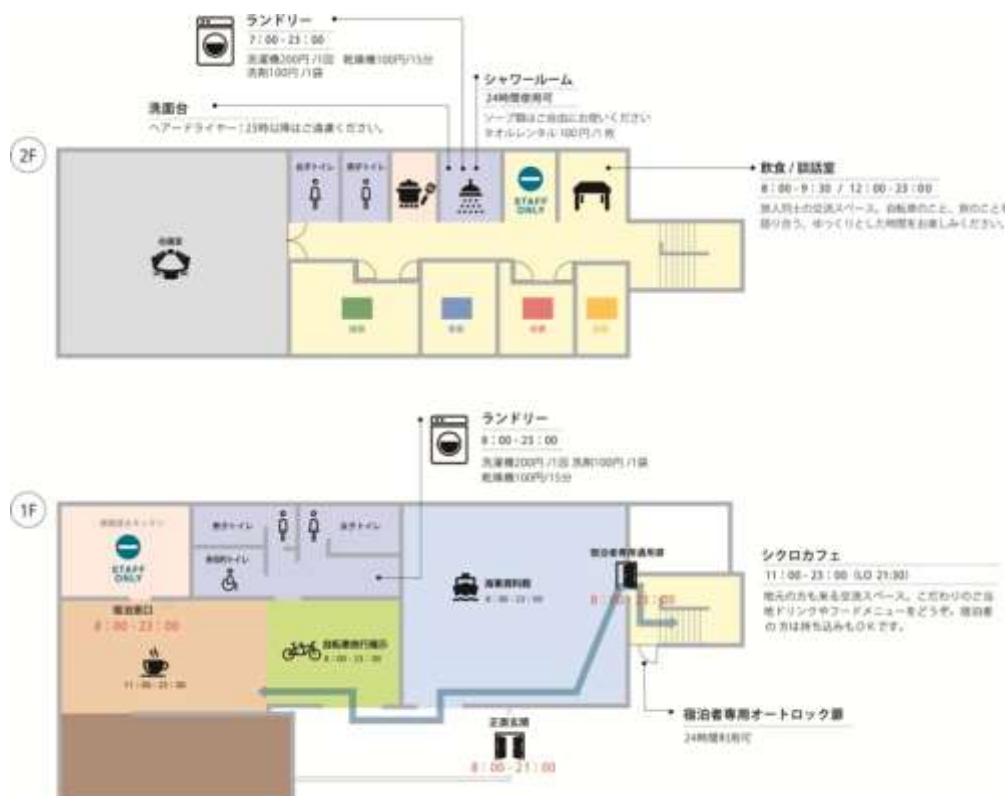
### 13. 宿泊業「しまなみゲストハウス シクロの家」「Cyclo cafe & book Hostel なみトみなと」

「しまなみゲストハウス「シクロの家」」は2018年7月で開業から5年目を迎えた。今年度は今治市波方町にて2店舗目の宿泊施設となる「Cyclo cafe & book Hostel なみトみなと」を開業。「シクロの家」運営の経験を生かして快適な宿泊施設整備を進めた。愛媛県・広島県ともに大きな被害を受けた平成30年7月豪雨災害を乗り越え、国際サイクリング大会も経て、開通20周年に向けて再び盛り上がりを見せるしまなみ海道。新しいスタッフ2名とともに、今年度はしまなみ海道サイクリングの拠点「シクロの家」と「なみトみなと」両施設で国内外からの多くの旅行者を迎えた。



#### ① 「なみトみなと」オープン

波方港の元フェリー乗り場だった建物を改装した「なみかた海の交流センター」で、2014年から運営を続けるカフェ「シクロカフェ」。長い間、遊休状態となっていたこの2階に宿泊施設「Cyclo cafe & book Hostel なみトみなと」を整備。2018年7月7日にオープンとなった。2名～6名用の計4部屋で16名を収容することができる。現在、「なみトみなと」は集客が見込める毎週木曜～日曜日を中心に不定期に営業している。



1階のシクロカフェを宿泊のレセプション兼談話スペースとし、美しい景色の中でのんびりと過ごすコンセプトの象徴として自転車、旅行、瀬戸内、郷土などに因んだ書籍を収集、本棚の整備を進めている。なお、施設名の「なみトみなと」には、穏やかな波音に耳を傾けながらゆったりと過ごす空間、元々フェリー乗り場として多くの旅人を迎えていた港の歴史を込めた。カタカナの「ト」には、その形状から分岐・交差を連想、旅が様々な方向に広がっていくイメージを表現している。



【写真】左：なみトみなと外観、中央：ベッドルーム、右：カフェ兼談話スペース

## ② 自転車旅行の拠点

「シクロの家」では自転車旅行者のニーズに対応したサービスとして、自転車の室内保管スペースも兼ねる「バイク・セルフメンテナンスルーム」、佐川急便の手荷物当日配送サービス「しまなみ海道手ぶらサイクリング」、自転車・手荷物の一時預かりなどを運用した（「なみトみなと」も佐川急便の提携宿泊先となった）。自転車旅行者の要望が多かった自転車チューブ、サドルクッションカバー、レインコート、小径車用パーツなどの販売も行った。毎日のようにしまなみ海道でのサイクリングを計画している方からのメールや電話での問い合わせがあり、可能な範囲で相談対応を行っている。宿泊以外の旅行者や地元住民のカフェ利用やサイクリング後のシャワーの一時利用があり、幅広い旅行者を受け入れる交流拠点としても機能した。



また、「シクロの家」には「しまなみ海道 0km 地点 スタート&ゴール」巨大看板を設置するなど、しまなみ海道スタート・ゴール地点としての価値をより高める空間づくりを進めた。今治駅前の立地を生かして、当法人主催のサイクリングツアーイベントの宿泊施設や自転車タクシーの拠点としても多角的に活用した。

「なみトみなと」は「しまなみ海道」のだけでなく、今治～松山の「はまかぜ海道」を結ぶより広域サイクリングの拠点である。広い駐車場スペースを生かして車載サイクリスト、来島海峡大橋により近い立地を生かしてレンタサイクル旅行者、より多い収容人数を生かして団体客を誘客するなど、「なみトみなと」ならではの強みを生かした拠点づくりを進めていきたい。



【写真】左：セルフメンテナンスルーム、中央：手荷物配送、右：しまなみ海道 0km 地点看板

### ③ 情報提供・交流促進

しまなみ海道でのサイクリングを目的として当地を来訪する旅行者にとって、今治市街地観光の意識は依然高くはない。チェックイン時の町なか紹介を今治市街地の魅力発信の好機と捉え、随時更新している手づくりマップ「散策マップ」や店舗情報ファイルなどのツールを駆使し、「シクロの家」では引き続き来訪者の今治市街地の回遊を促進した。

「なみトみなと」でも同様に、波方半島の手づくりサイクリングマップや店舗情報ファイルを作成。チェックイン後の波方・波止浜エリアの魅力を伝える情報提供を行った。駅前とは違い不便な場所ではあるものの、長閑な瀬戸内の風景や絶景スポット、ローカルな商店など、「なみトみなと」ならではの魅力を伝えていきたい。また「シクロの家」では海外からの旅行者が増加したことを受け、英語表記の情報ツールを作成、パンフレット、マップなども充実させた。英語版の町なかマップには、「レストランで使える日本語例文集」「ベジタリアン向け指差しコミュニケーション」を追加するなど、海外旅行者ならではのニーズにも対応。そのほか「今治鉄板焼き鳥の写真付き英語メニュー表」も好評で、ローカルな飲食店に海外旅行者がいる風景が馴染みつつある。また当館のドミトリールームでのゲスト同士の言語的な障害を低くするツールとして、「ドミトリコミュニケーションシート」を作成、各部屋に配置した。エアコンの温度や消灯などについてより簡単に意思疎通ができ、より快適に過ごせる環境づくりを目指した。



【写真】左：情報提供ツール、中央：英語メニュー、右：ドミトリコミュニケーションシート

### ④ まちなか移住交流促進事業の展開

お試し居住空間の提供など（詳細は「1. まちなか移住交流推進事業」参照）

### ⑤ グッズ開発・販売

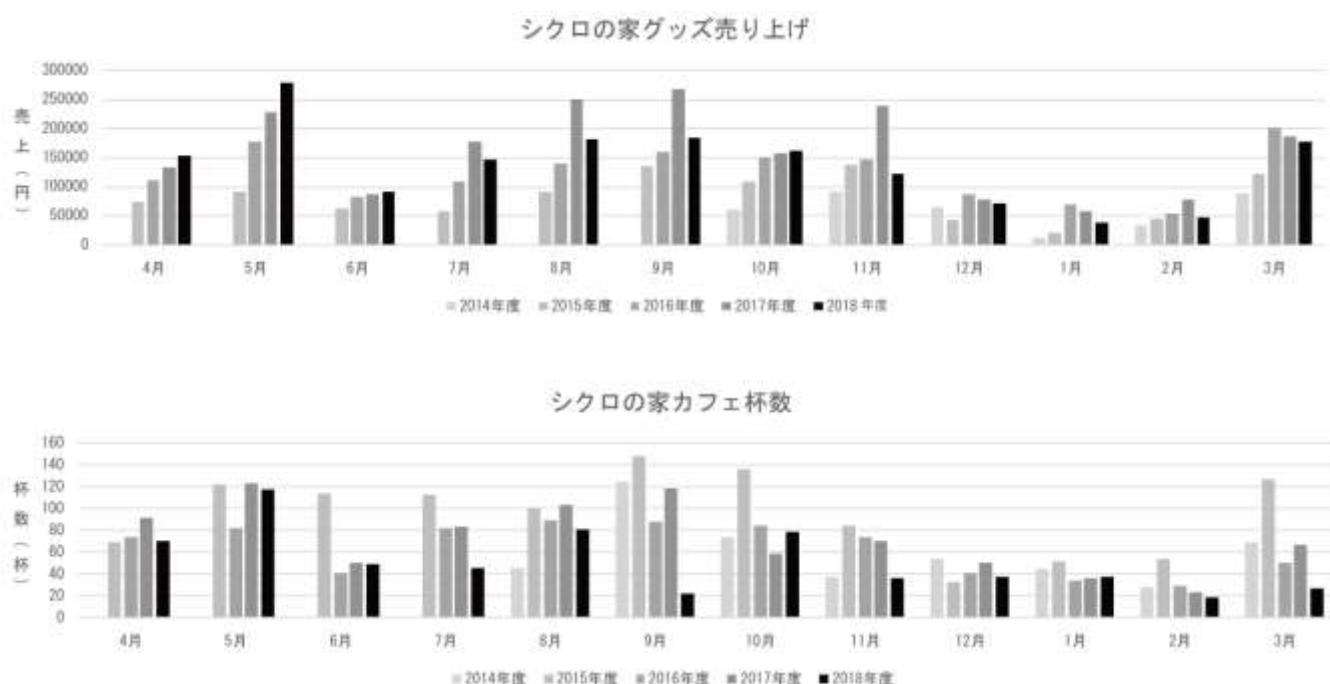
「シクロの家」のカウンター、「なみトみなと」のカフェスペースではオリジナルグッズやガイドブック・地図の販売スペースを設けてあり、宿泊者や立ち寄り利用客に向けて販売をした。

ガイドブック「しまなみ島走 BOOK」やガイドマップ「しまなみ島走 MAP」は新たに改訂版を出版。マスキングテープ以外の文房具系グッズのラインナップにメモ帳2種類と一筆箋が加わった。今治のキャラクター「バリィさん」関連グッズも販売を開始した。ナカムラコーヒーとのコラボレーション商品として4月から発売を開始したドリップコーヒーバッグ「しまなみ珈琲」も売れ行きが好調である。サイクリングの前にガイドブック購入目的で、サイクリング後にお土産購入目的で「シクロの家」へ立ち寄る旅行者の姿も多くみられた。

「シクロの家」のカフェ&バーでは、「シクロ果樹園」で栽培した柚子や梅を使用したドリンクを開発・販売。ウェルカムドリンクとして提供している柑橘ドリンクも自家栽培の果実を利用できるようになった。「なみトみなと」ではスーパーマーケットやコンビニエンスストアが遠いことなどから、併設の「シクロカフェ」で酒類の販売を求める声が宿泊者からあり、瓶ビール、リキュール2種、焼酎2種をメニューに加えた。宿泊者による「シクロカフェ」利用も増えており、地元食材に拘ったカレーやピザも好評。朝食メニューのニーズも高まりつつある。（詳細は「14. 物品販売業」参照）



【写真】左：グッズコーナー、中央：しまなみ珈琲、右：「なみトみなと」でも酒類提供開始



## ⑥ ホームページ・SNS 等での広報

「シクロの家」及び「なみトみなと」のプロモーションを、地域情報・イベント情報等の発信とともに行った。「シクロの家」「なみトみなと」の各ウェブサイト上で日本語・英語でのしまなみ海道サイクリング情報ウェブページの更新。しまなみ海道のニュースや店舗情報、スポット情報などは各スタッフでブログを更新し、Facebook ページや Twitter、Instagram といった SNS を 3 日に 1 記事程度を投稿。インターネットを活用した広報を行った。シクロの家 HP は年間のページビュー数が 1,202,136PV（2017 年度 79 万）、なみトみなと HP が 57,374PV（2018 年 6 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）、シクロの家ブログが約 10 万 PV（推定値）、Twitter の年間インプレッション数は 976,127（2017 年度 49 万）を記録。2019 年 3 月 31 日現在で、Facebook は 3152 人、Twitter は 2,903 人のフォロワー数を獲得している。

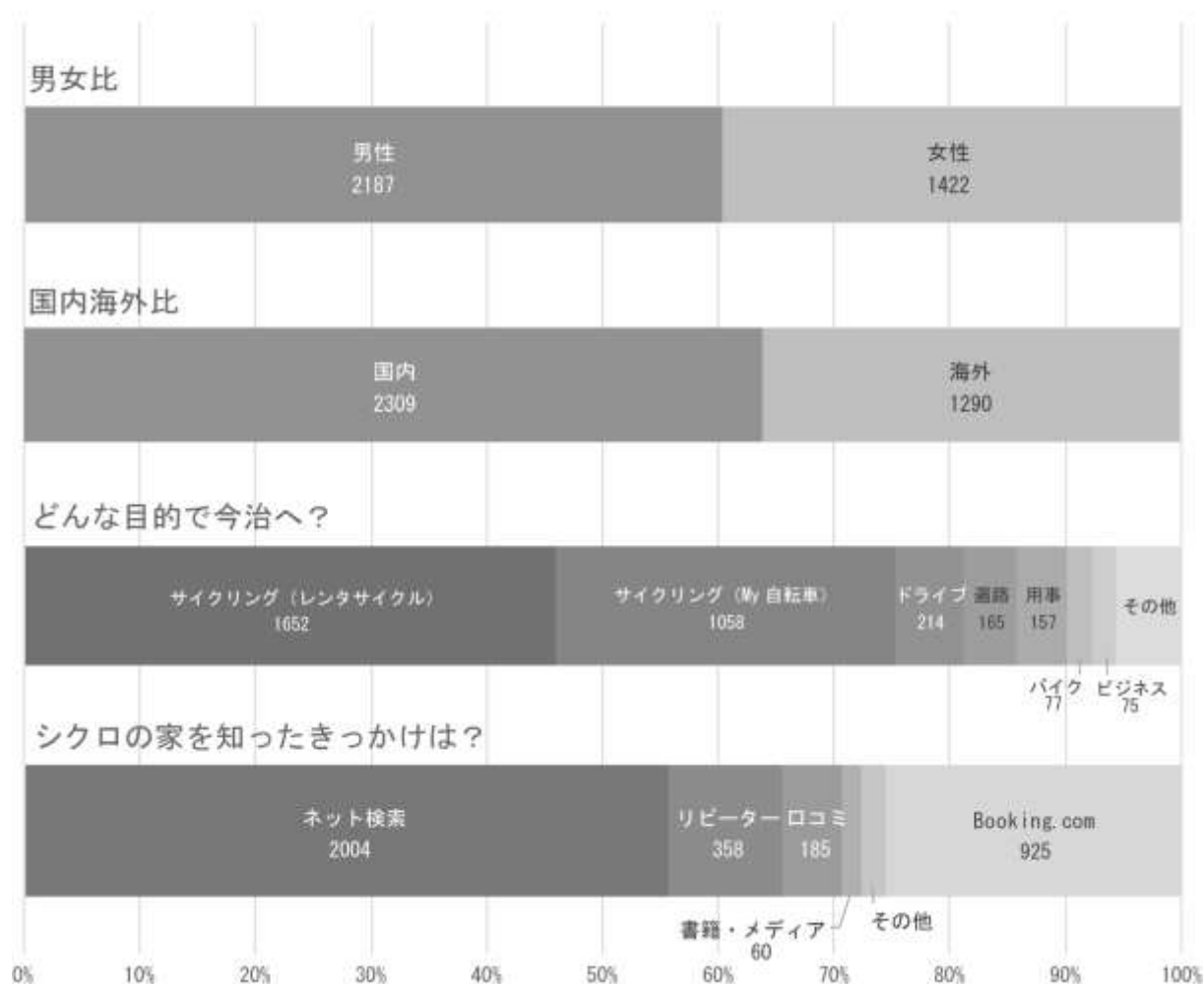
## ⑦ 利用者の実際

最大で 14 名収容できる「シクロの家」の年間の宿泊者数は 3,627 名（泊）（2016 年度 3,478 名、2017 年度 3,618 名）、サイクルオアシス総合拠点としての一時利用（カフェ利用を含む）は 623 名（2016 年度 347 名、2017 年度 520 名）となった。年間の稼働率は 7 割程度。一方で、「なみトみなと」の 2018 年 6 月 1 日～2019 年 3 月 31 日の営業日 98 日間で宿泊者数は 514 名（泊）となった。

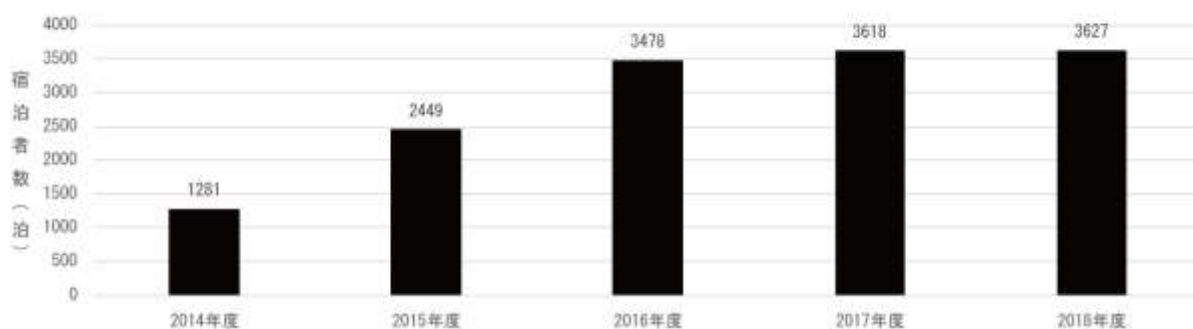
昨年度まで課題となっていた「シクロの家」の収容人数に限界がある問題については、2号店ができたことにより「シクロの家」が満室の際に「なみトみなと」へ誘客することができた。開業当初はそうした受け皿としての役割が多かった「なみトみなと」であるが、独自に広報も進めたことによって徐々にそれぞれの宿泊施設の特色を旅行者に伝えることが出来始めている。引き続き宿泊環境の整備と集客を進め、双方の宿泊者数を伸ばしたい。以下に今年度の宿泊者データを掲載する。

【しまなみゲストハウス「シクロの家」】

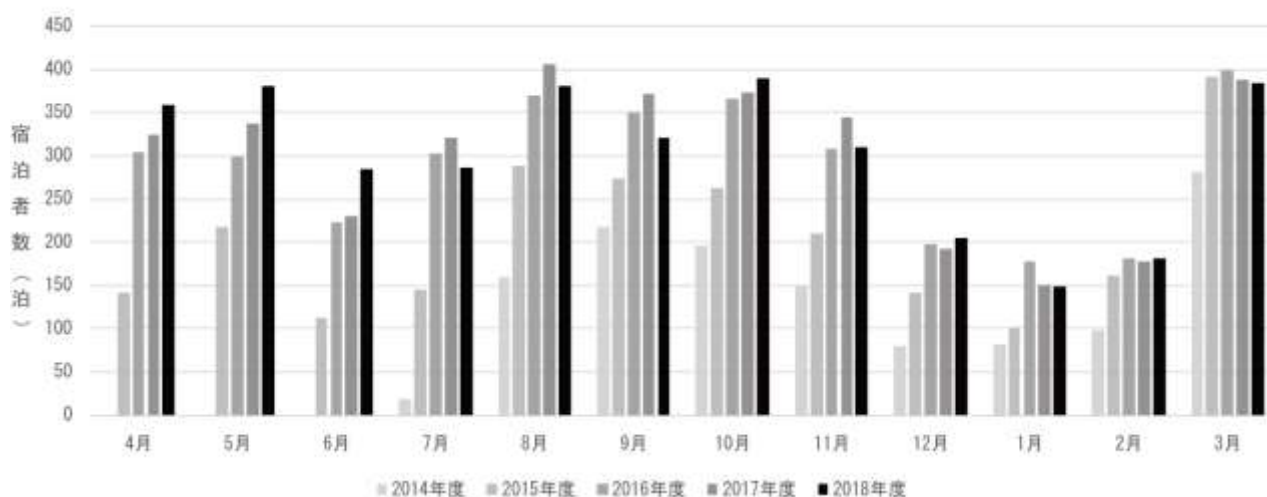
シクロの家 宿泊者属性 (2018 年度)



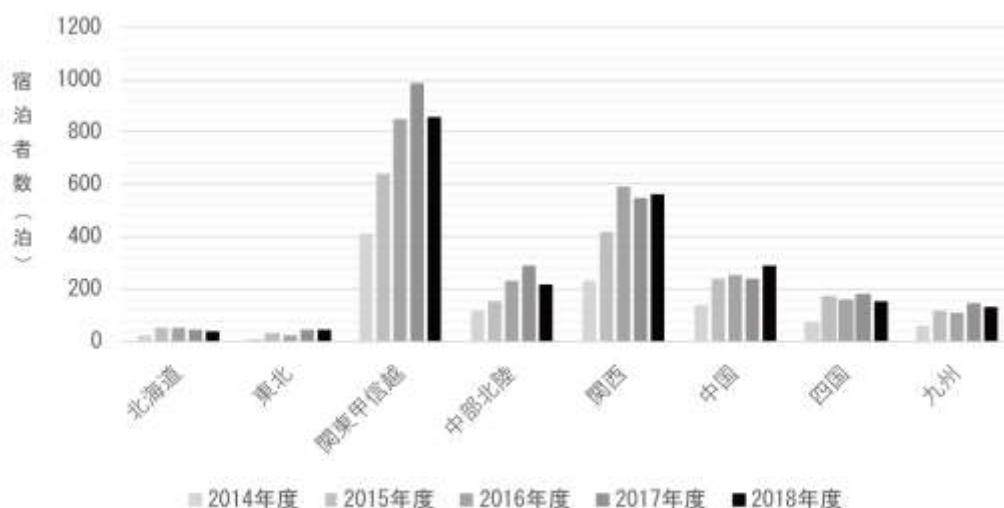
シクロの家年間宿泊者数推移



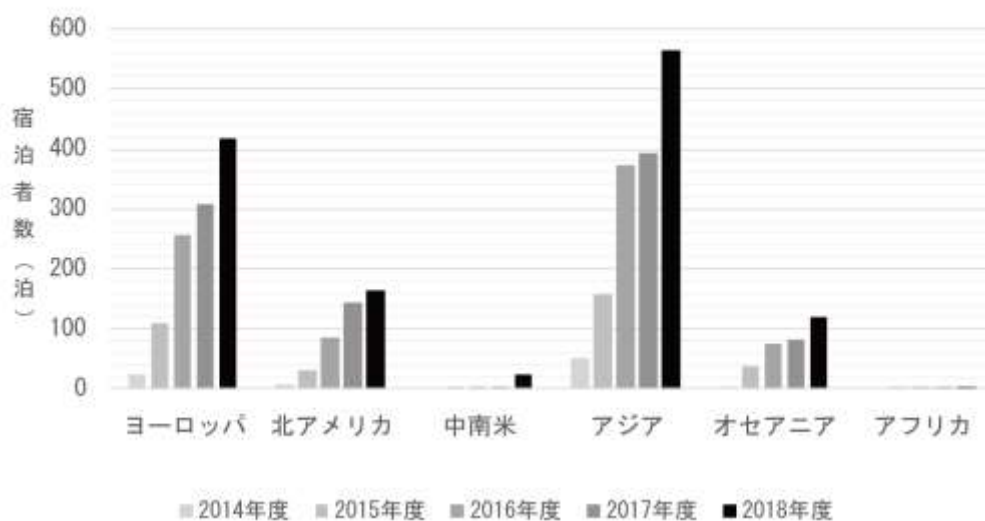
月別宿泊者数推移【2014年度～2018年度】



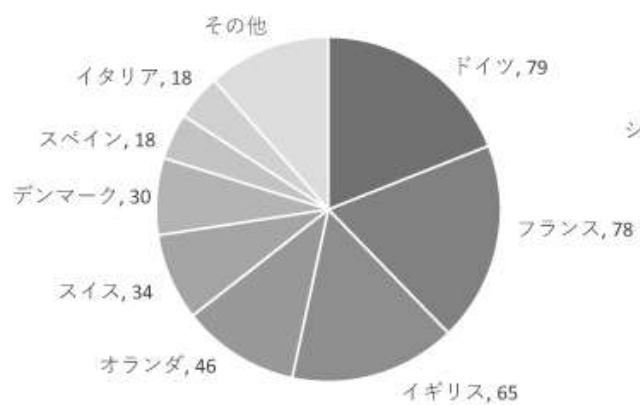
宿泊者地域【国内】



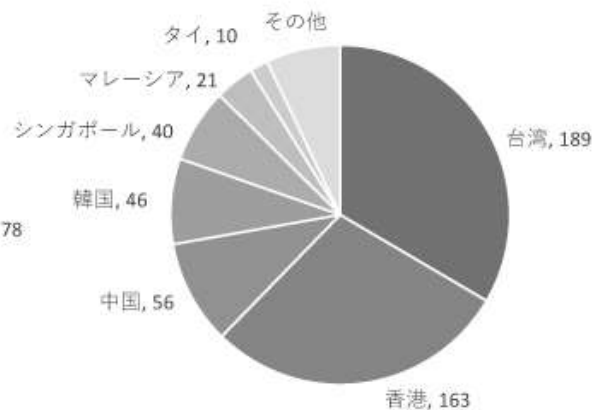
宿泊者地域【海外】



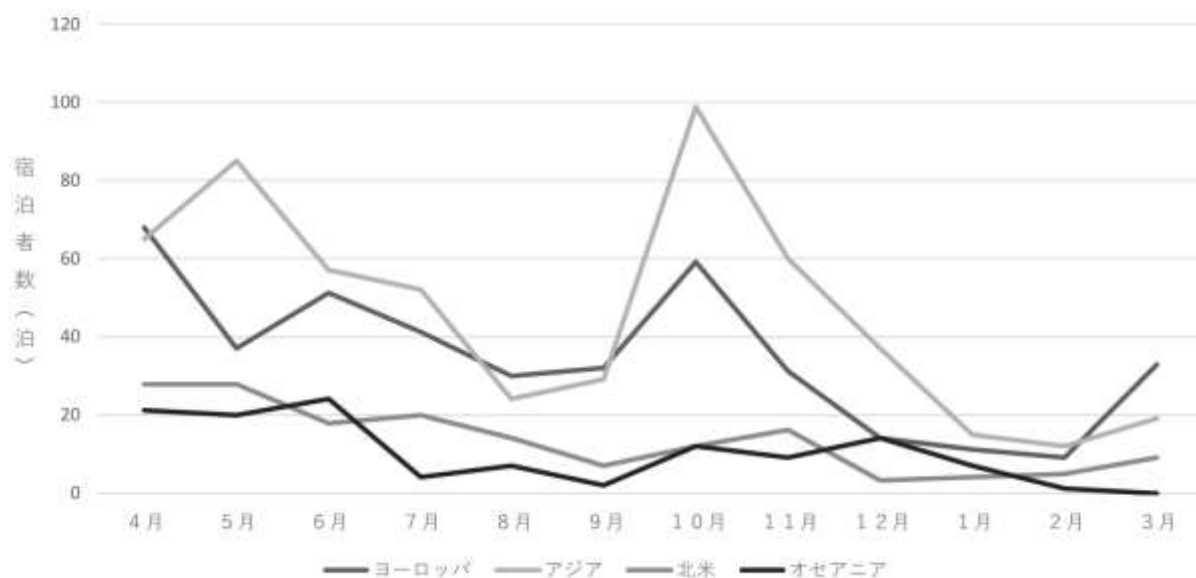
ヨーロッパ宿泊者内訳 宿泊者数（泊）



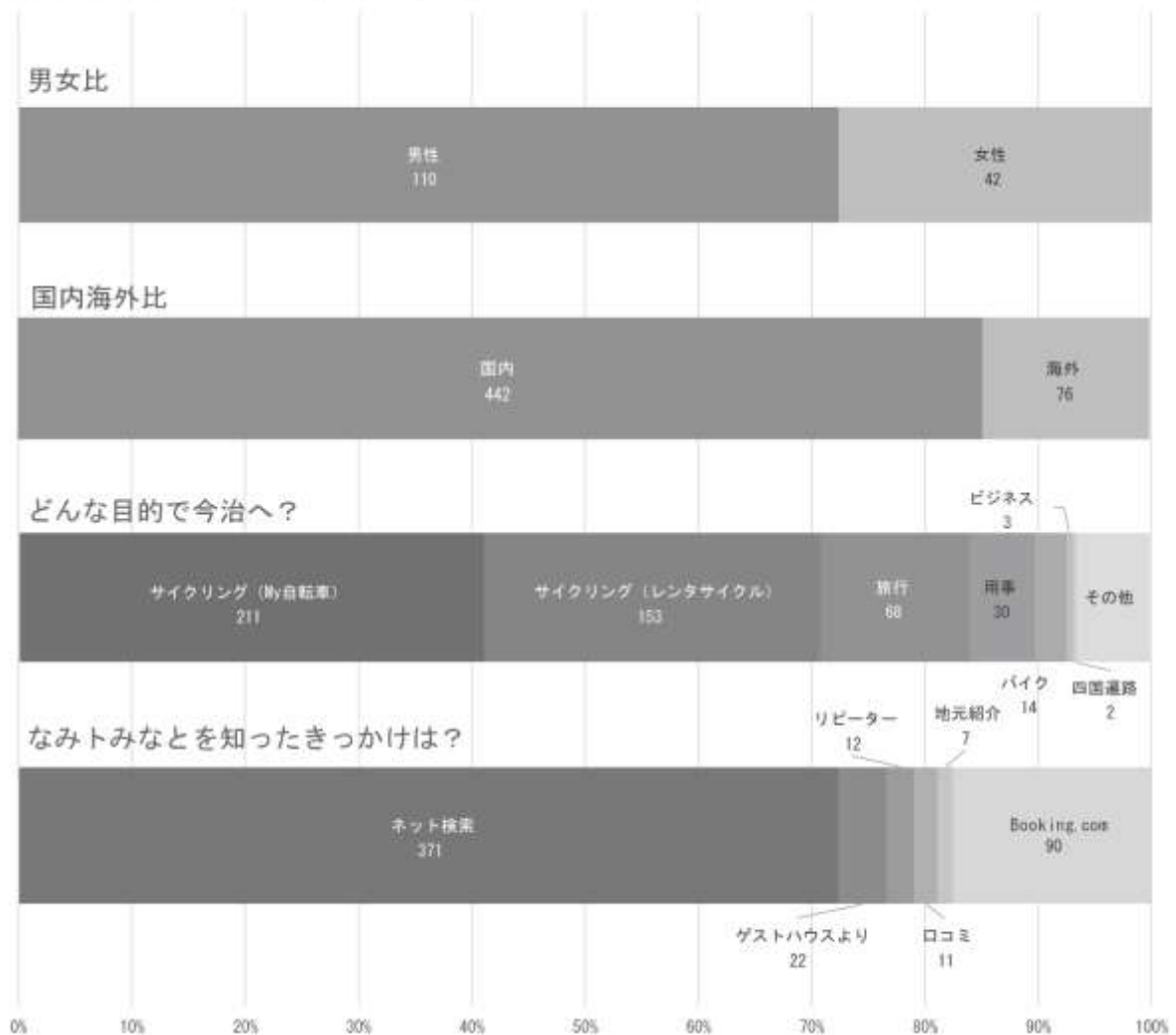
アジア宿泊者内訳 宿泊者数（泊）



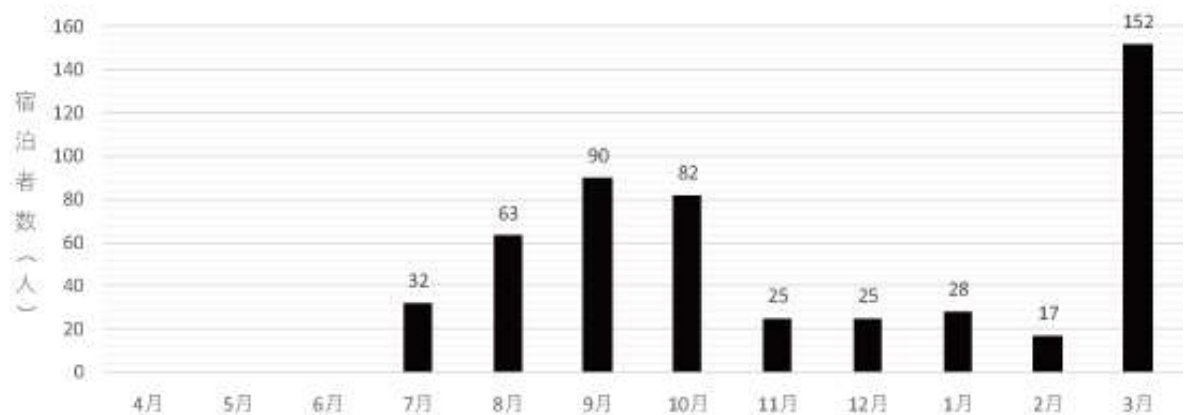
地域別月宿泊者数推移



なみトみなと 宿泊者属性 (2018 年度)

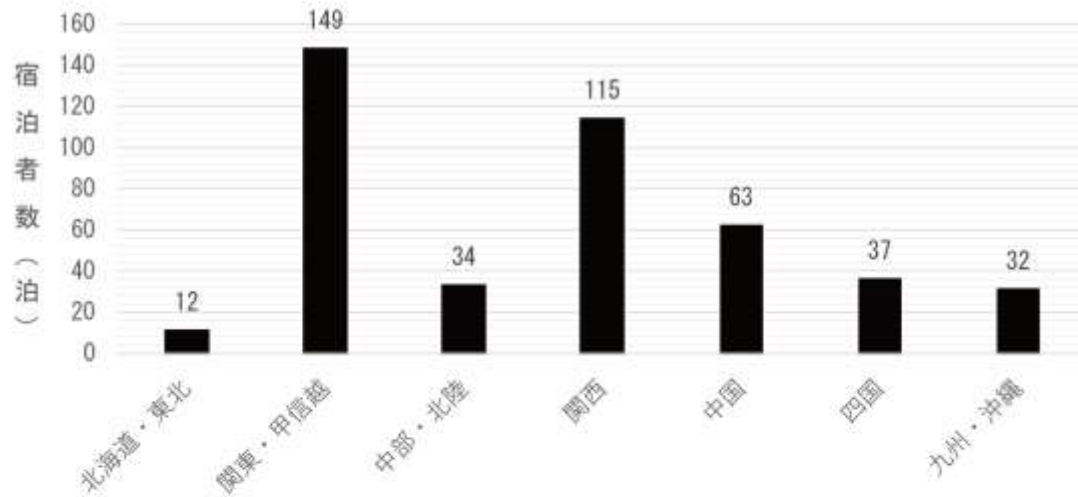


月別宿泊者数 (2018年度)

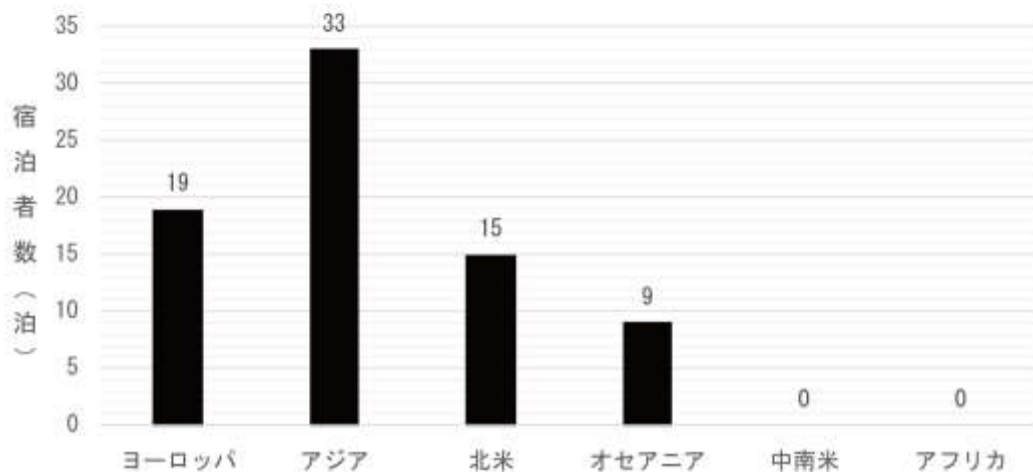


|                |   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|----------------|---|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 営業日数 (日)       | 0 | 0 | 0 | 6   | 9   | 12  | 9   | 8   | 16  | 12  | 6   | 20  |
| 平均宿泊者数 (人 / 日) | 0 | 0 | 0 | 5.3 | 7.0 | 7.5 | 9.1 | 3.1 | 1.6 | 2.3 | 2.8 | 7.6 |

宿泊者地域【国内】



宿泊者地域【海外】



## 14. 物品販売業

### ① 商品販売

「ゲストハウス シクロの家」「なみかた海の交流センター シクロカフェ」等での対面販売、当会HPでのインターネット販売を継続展開した。しまなみ沿線において、委託販売等の協力店舗を掘り起こし、特にしまなみ海道エリア内の道の駅等では専用の販売ラックを設置する等、販促活動を強化した。

「シクロの家」のカウンターでは「島走Tシャツ」や「ガーゼマフラー」などの定番商品に加え、「しまなみ女子Tシャツ」や「あるあるメモ帳シリーズ」、「しまなみお便りセット」等を販売した。宿泊ではなくグッズ購入目的での来訪も多数あった。



## ② 商品開発

ゲストハウスやカフェ利用者との懇談の中で、しまなみの土産として訴求する可能性がある新商品を試行錯誤しながら、開発・販売した。手軽に購入できる単価（500 円程度）の商品として、メモ帳等の文具を充実させた。単価はあがるが日常的に自分のものとして使える商品としてオリジナルサコッシュのラインナップも充実させた。こだわりのショップとのコラボレーションにもチャレンジし、「しまなみ珈琲」の商品化も進めた。

## 15. 自転車まちづくり

### ①講師派遣

しまなみ自転車振興等に関するについて、依頼に基づき、講師を派遣した。

|                                      |                             |                                                                                           |
|--------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 30 年<br>4 月 23 日(月)               | 愛媛大学経済学部                    | 観光による地域経済活性化について、事例を通して学生が学ぶ講義を担当。波及効果が高い観光産業により、地方都市を創生する視点について、地域資源を活用した取組から提案した。       |
| 平成 30 年<br>5 月 14 日(月)               | 愛媛大学共通教育<br>チーム             | 地域に関する知識及び課題について、理解を深める「愛媛学」の講義を担当。地方都市が抱える課題、持続可能なまちづくりについて、しまなみ地域の事例を通して学ぶ講義を行った。       |
| 平成 30 年<br>11 月 9 日(金)               | 美咲市経済部観光<br>振興課             | 自転車をいかした観光・交流人口拡大に着眼し、ここ数年、多様な取り組みをしてきた美咲市の活動を振り返る意見交換会への話題提供。担い手の抱える課題、強みを整理し、ビジョンとした。   |
| 平成 30 年<br>11 月 29 日(木)              | LIFE CREATION<br>SPACE OVE  | 第 10 回「自転車まちづくり」地域交流会において、環境・観光・健康・教育等、様々な施策を地域全体で取り組むために、市民レベルの活動の意義とその経営について報告。         |
| 平成 30 年<br>12 月 6 日 (木)              | 南予地方局地域政<br>策課/旅南予協議<br>会 他 | 業界大手の airbnb と提携し、民泊事業の方法や運営についての周知を目的とした勉強会において、サイクリングを切り口にした宿泊誘客を目指す対象者への講話を担当。         |
| 平成 31 年<br>3 月 20 日 (火)              | 神戸運輸局総務企<br>画部              | 淡路島サイクルツーリズム推進による観光広域化及び海上交通の活性化に関する調査を進める検討委員会への専門的見地からの助言を担当。                           |
| 平成 29 年<br>2 月 9 日(木)<br>2 月 14 日(火) | 愛媛県<br>東予地方局<br>中予地方局       | 「東予・中予サイクルオアシス」の整備に合わせ、担い手を対象とした運営者会議へのアドバイスをを行った。サイクリストとの交流の空間づくり、サービス提供について意見交換した。      |
| 平成 31 年<br>2 月 19 日 (土)              | 愛媛県経済労働部<br>観光物産課           | サイクリスト観光サービス向上事業研修会において、自転車によるまちづくりの活動を事例発表した。ガイドツアーやゲストハウス運営の取り組みを紹介した。                  |
| 平成 31 年<br>3 月 8 日 (水)               | 中国四国地方環境<br>事務所             | bike biz を推進する環境省の取り組みとして、一般市民に自転車乗車を促すフォーラムを開催。しまなみ海道でのツーリズム推進を事例にサイクリング人口拡大へのビジョンを紹介した。 |
| 平成 31 年<br>3 月 28 日 (水)              | 静岡県文化・観光<br>部スポーツ局          | サイクリストを受け入れる側(商店、観光施設、宿泊施設など)を対象としたフォーラムに登壇。「サイクリストの受入態勢の充実による地域経済の発展」をテーマに講演した。          |

### ②視察受入

自転車を活用した地域活性化などについて、事前予約制で個別相談、視察を受け入れた。

|                         |                      |                                                                                     |
|-------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 30 年<br>5 月 30 日 (水) | 房総神社サイクル<br>ライド推進委員会 | 千葉県南部の南房総エリアにおいてサイクル・ツーリズムによる地域活性化を検討している委員会の視察受入。若手神職が担い手の会へ向け、地域参画型まちづくりの経緯を紹介。   |
| 平成 30 年<br>7 月 4 日 (水)  | 御殿場市議会<br>常任委員会      | オリンピック自転車競技開催地の静岡県からの視察。しまなみ海道での住民参画型のまちづくり、持続可能な自立した運営についての情報提供を行った。               |
| 平成 30 年<br>7 月 5 日 (木)  | 静岡県駿東郡町議<br>会議長会     | 小山町の富士スピードウェイが自転車競技ロードレースのゴール会場となったことを受け、自転車を活用した地域づくりの現場視察。当会の取組と自転車による地域変容の事例を紹介。 |

|                         |            |                                                                                       |
|-------------------------|------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 30 年<br>8 月 31 日（金）  | 宮城県西都土木事務所 | 宮城県の自転車行政の推進に資する情報収集のための来訪。自転車道整備、自転車利用促進のハード整備を含め、官民協働で進めてきた受入体制整備について紹介。            |
| 平成 30 年<br>12 月 24 日（月） | おおすみ観光未来会議 | 市町を超えた連携で観光による地域活性化の取り組みを進める中、サイクリングによる地域回遊へのヒントを求めての視察。競技性のあるコースが存在する中、まちづくりへの反映を共有。 |

### ③ 審議会・委員会・意見交換会への参加

しまなみの自転車振興や関係機関との連絡調整等に関する会議等に参加した。

|                        |                             |                                                       |
|------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 平成 30 年<br>4 月 16 日（月） | 今治市中心市街地再生協議会<br>今治市商工振興課主催 | 今治市中心市街地再生基本計画第 2 期の推進に関わる検討。定例総会への参加。                |
| 平成 30 年<br>4 月 25 日（水） | 今治サイクリング協会総会                | 今治市内の自転車商などで構成するサイクリング協会が 30 周年を迎える節目の総会において、意見交換を担当。 |

## 16. 会議に関する事項について

### (1) 総会

#### ① 第 9 回通常総会

日時：2018 年 4 月 29 日（日）13：30～ 会場：今治市民活動センター

議題：○2017 年度事業報告・収支決算報告の件 ○役員改選の件

○2018 年度事業計画・収支予算の報告の件

### (2) 理事会

第 1 回 日時：2018 年 4 月 29 日（日）12：30～ 会場：今治市民活動センター

議題：○2017 年度事業計画・活動予算の件 ○代表理事選出・有給役員の件

○スタッフ給与の件 ○総会に付すべき事項の件

第 2 回 日時：2018 年 5 月 23 日（水）12：30～ 会場：ゲストハウス シクロの家

議題：○まちなか移住交流推進事業の件○自転車タクシー運行の件○宿泊業“なみトみなと”の件

第 3 回 日時：2018 年 6 月 1 日（金）12：30～ 会場：なみかた海の交流センター

議題：○代表理事選任の件 ○サイクルオアシス整備の件 ○三浦保基金助成事業の件

第 4 回 日時：2018 年 7 月 7 日（土）12：30～ 会場：CYCLO CAFÉ & BOOK HOSTEL「なみトみなと」

議題：○正社員雇用の件○平成 30 年度 外国人留学生へのサイクリング普及促進事業の件

第 5 回 日時：2018 年 11 月 17 日（土）12：30～ 会場：CYCLO CAFÉ & BOOK HOSTEL「なみトみなと」

議題：○NPO 自立モデル事業、外国人留学生へのサイクリング普及促進事業等進捗事業の確認の件

第 6 回 日時：2019 年 1 月 6 日（日）12：30～ 会場：今治市民活動センター

議題：○2019 年度事業計画の件

○2018 年度事業計画・活動予算の件 ○次年度の体制の件